

いのちは誰のものですか

【講師より】この問いを考えさせられたきっかけは、母の安楽死でした。安楽死は母の独断であり、私にとっては認められないものでした。スイスでは自殺幫助の罪に問われず、安楽死が認められています。生きること、人生の価値、老いていくこと、何の為に生かされているのか、これらを考えなければなりません。「今、いのちがあなたを生きている」という言葉は、「いのち」が私となり現れたことです。だからこそ命を私有化してはいけません。死にざまを考えるより、生きざまを考えることです。



ジェシー釋萌海さん
しゃくほうかい

【略歴】1979年、スイスの田舎に生まれる。キリスト教の環境下で育ったが、教えに納得できず自分の道を模索中、仏教に出会う。母の安楽死による心の落ち込みから「命は誰のものか」と深く考えるようになる。浄土真宗と出会い、教えに惹かれて、得度して僧侶となり、大阪真宗学院で教師資格を取得。尺八も得意。

2023. 6.17土

13時 開場
13時30分 開式・勤行
14時 講義
16時 終了

吉崎東別院

聴講無料

事前申し込み不要

持ち物：念珠、勤行本